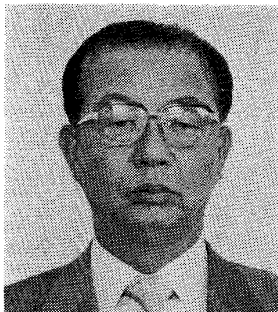


渡辺 義介 記念賞

大同特殊鋼(株) 渋川工場長
藤堂 保和君

高級特殊鋼生産技術の進歩発展



君は昭和 28 年 3 月東北大学工学部金属工学科卒業，ただちに大阪金属工業(株)に入社。更に昭和 35 年 10 月大同製鋼(株)に再入社し，昭和 45 年 10 月知多工場 圧延一課長，昭和 51 年 9 月情報システム部長，昭和 54 年 4 月川崎工場長，次いで昭和 59 年 9 月渋川工場長となり現在

に至る。

君は入社以来，工場・営業・管理部門と幅広く特殊鋼生産の業務に携わり，幾多の成果を上げている。

1. 高級特殊鋼工場の建設

昭和 51 年 9 月，大同製鋼・日本特殊鋼・特殊製鋼の三社合併に当たり，日本特殊鋼・特殊製鋼の設備の渋川工場への集約と新設備の導入に寄与し，さらに昭和 60 年 8 月これら設備の大改造を行い，高級特殊鋼工場の完成に貢献した。

2. 電算機による管理システムの向上発展

上記三社合併に伴う電算機システムの統一化を図り，複数の工場で行われている多品種・小ロット生産の効率的な管理システムを確立した。

3. 高級形鋼製造技術の確立

ステンレス，高合金，および Ti などの高級特殊鋼の形鋼の製造に当たり，圧延パス方式とガイド類に工夫をこらし，量産化技術の向上に寄与した。

4. 石油掘削関連材料の開発

オイルショック後の市場ニーズの調査・研究を行い，特に非磁性ドリルカラーの商品化に着目し，高品質で信頼性の高い材料の開発と，供給体制を確立した。

5. 航空機・原子力用材料の製造管理体制の確立

高品質・高信頼性を特に要求される，これらの材料の製造管理体制について，生産・販売・管理の豊富な経験を生かして，その発展向上に寄与した。特にジェットエンジン用材料の国産化に力を入れ，その技術と経験は他の特殊鋼製造分野に，多くの波及効果をもたらしている。

渡辺 義介 記念賞

川崎製鐵(株) 理事 LSI 事業推進部長
兼新素材事業推進部長
平井 信恒君

厚鋼板生産技術の開発と発展向上



君は，昭和 30 年九州大学工学部冶金工学科卒業後，直ちに川崎製鐵(株)に入社し，以来千葉および水島製鐵所において，原鋼板製造設備の建設および操業に従事し，その後昭和 45 年 7 月水島製鐵所システム部システム課長，54 年 7 月同厚板 圧延部長，56 年 11 月同条鋼 圧延部長兼

任，58 年 7 月同企画部長を経て，60 年 9 月 LSI 事業推進部長兼新素材事業推進部長に就任，現在に至っている。

君は，入社以来厚鋼板の製造に従事し，その間設備の建設，製造技術の開発，改善，革新的生産管理方式の開発など，厚鋼板生産技術の開発およびその発展向上に尽力した。

1. 厚鋼板製造設備の建設と操業技術の向上

昭和 34 年以降，千葉および水島製鐵所の厚板工場の建設に従事し，常に最新の技術の採用を試み，我が国で初めての AGC システムを開発導入し実用化した。引き続き操業に携わり，歩止，品質面での技術開発を進め，また低温用高張力鋼板などの製造プロセスとしての MACS (オンライン加速冷却設備) の開発導入，油圧 圧下システムの実用化など，高性能，高品質厚鋼板の製造技術を確立した。

2. 厚鋼板生産管理技術の確立

高生産性設備による厚鋼板の生産管理方式を確立し，この分野では初めてオンライン操業管理を導入，ビジネスコンピュータとプロセスコンピュータのオンライン結合と機能分担による高信頼性の生産管理システムを完成させた。更に，その後の複雑な生産方式や，高級化，高付加価値製品化への対応に有効な役割を果たした。

3. 厚鋼板製造技術の発展向上と育成指導

昭和 54 年から 6 年間にわたり，日本鉄鋼協会共同研究会鋼板部会厚板分科会主査として，我が国厚板製造技術者の育成指導に努めるとともに厚鋼板製造技術の向上に大きく貢献し，59 年 5 月には，最近 10 年間にわたる厚板製造に関する設備，技術を集大成した「わが国における最近の厚板製造技術の進歩」(第 2 版) を出版した。